



永く住み継がれている110年の歴史を刻む住まい

築110年の住まいをリフォーム



▲110年を経て甦ったファサード（東側）

コロニアル・リバイバルの建築様式のこの戸建て住宅は、1905年に、プラットフォーム工法（北米におけるツーバイフォー工法）の前身であるバルーンフレーム工法で建設された、110年の歴史ある住まいです。コロニアル・リバイバル様式は、1900年代の前半に北米でポピュラーになり、現在でもバンクーバー中心市街地に多く見られます。シンプルでエレガントなデザインが特徴で、格調高い趣があります。1年6か月をかけたリフォームが終了したのは2014年のこと。延床面積が約723m²という大きな住まいは、新築当時を思い起こさせる風格ある佇まいに甦りました。

外観の重厚な趣は保持し、美しさを甦生する

外装のリフォームは、バルーンフレーム工法が持つ重厚な趣の景観を残すことに重点が置かれ、通りに面したファサードとサイド面はテクスチャーを保持する一部補修と塗替えが行われました。また、ファサードの伝統的なデザイン要素となっている木製窓も、ガラスだけ取り替えられ、オリジナルの窓枠はそのまま使われています。窓枠は丹念に手で外し、心して補修され、品位を感じさせる窓になりました。



▲西側にはガーデンテラスが広がる

建物の後ろ側である西面は、通用口をなくして、キッチンから庭へ出られる両開きのテラス窓を設置しました。石の階段でつないだ2段のガーデンテラスは、歴史ある建物の風合いに馴染むとともに、現代の生活にフィットし、使い勝手の良いバックヤードになったと、建築家は自讃しています。

築110年の住宅のリフォームは、慎重に、綿密に、そして近隣にも配慮しながら行われました。

現代の暮らしに合わせ明るく広いキッチンに

コロニアル・リバイバル様式は、シンメトリーでバランスの取れた設計プランが特徴です。この住宅も玄関や階段室が中央にあり、両側にファミリールームやリビングがあります。

リフォーム前の住まいは110年前に建築した当時のままの状態でした。各空間は、現代の標準寸法より小さく分かれていて、物理的にも視覚的にも良い状態ではありませんでした。部屋の通り抜けができず、使い勝手が悪かったのです。

たとえば、以前のキッチンは、この建物の大きさにしてはとても窮屈なものでした。これを改善するために、家政婦が使用していた建物西側の通用口と階段を撤去し、廊下もなくして、キッチンスペースを拡げました。そして、ガーデンテラスとつながるようにしたため、明るさや眺望も確保でき、気持ちの良い空間に生まれ変わりました。また、地下階と1階をつなぐ階段と2階からロフトに上がる階段は、メイン階段のある中央に移動され、そのスペースは水まわりやクロゼットに当てられました。



▲内装をリニューアルした玄関ホール



▲110年前の木製窓が再生されたリビング



▲スペースが広がったキッチンと食事コーナー



▲木製窓を補修し、内装を新しくした2階の主寝室



▲くするとともに設備を一新した2階のバスルーム

所在地：カナダ ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー市

延床面積：722.79m²

設計：スチュワート・ホーワード

リフォーム：2014年

Photo & Report : [Peter Powles](#)

【無断転載禁止】

本ページ掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。